



高石市職労青年部長 大原 桜さん (保育士)
(大阪自治労連 青年部常任幹事)

子どもの頃から小さい子と遊ぶのが好きだったという大原さん。高石市の保育士採用試験を受け、2007年4月に入職。発達支援センターで6年、現在は市立綾園保育園内にある子育て支援センターに勤務して4年になります。学生時代からの合唱をつづけながら、組合では青年部活動でも奮闘中—そんな大原さんに今年の抱負を聞きました。

仕事も組合も づながりを大切にしたい

「子育ての悩みや喜び」と向き合う毎日

子育て支援センターは、保育園内に併設されており、主任1人を合わせて保育士4人で様々な事業を担っています。毎日開放されているので、親子であそびに来られたり、「赤ちゃん広場」などに来られたり、悩みを相談に来られたり…と、毎日違う親子が来られています。



昨年12月10日の近畿ブロック青年部クリスマスパーティーには120人を超える参加が。前列中央のサンタ服が大原さん

我が子の困った行動へどんなふうにかまうか…など、核家族化された中で、子育ての些

細なことや生活・医療・育ちなど様々な悩みを抱えながら訪ねて来られます。保育園の保育士とは違って、その日に初めて会う親御さんの求めていることや悩みを引き出すために、短い時間で信頼してもらえそうな関わり方など、職場の先輩方に教えてもらいながら仕事をしています。

話を聴いてもらいスッキリとした表情になって帰られるお母さんの姿や、来られるたびに親として自信がついてきている姿が見られたり、「来てよかった」などと声をかけられると、やりがいを感じます。

高石市は、地域の子育て支援に力を入れています。子育て支援センターの存在を知って来られる方には、様々な手立てが届いていますが、支援センターに来られずに（存在すら知らずに）、独りで悩みながら子育てされている方へ、つながりをどうつくられるかが課題の一つと感じています。

いろいろな場所ですなごった仲間がいるから

2009年の「おきプロ」が縁で、青年部の取り組みにかかわるようになり、高石市職労の青年部を立ち上げました。2014年の「おきプロNEXT」を経て、青年部長、大阪自治労連の青年部常任幹事、自治労連近畿ブロック青年部長をしています。

同世代や私より若い人たちの話を聴くと「自分の生活、自分の仕事で精一杯」という人が多い。私は、大変なことも仲間がいたから乗り越えられたし、うれしい経験もしてきました。仲間が多ければ多いほどいろんなことをシェアして分け合うことができるので、活動に関わる人をどれだけ増やせるか…がこれからの課題です。私でもできているので「誰でもできる青年部活動」をめざして、高石市職労でも、大阪や近畿でも続けていければと思います。

大阪春闘共闘と大阪労連の「4折春闘宣言」を合わせて「賃上げ・雇用の安定・中小企業支援をすすめて」ともびかけました



2018春闘

すべての職場・地域で働く者のくらし改善 憲法9条を守ろう

大阪自治労連は12月13日に開催した春闘討論集会で、憲法をめぐる歴史的「せめぎ合い」の国民春闘のもとで、3000万署名をやりきろう。そして、ニセモノの「働き方改革」に対して、誰もが8時間働けば人間らしく暮らせる社会、安心して働き続けられる職場へ「ホンモノの働き方改革を求めよう」をあげよう、安倍暴走政治・維新政治から「政治の民主的転換を求めよう」をあげよう

と確認しました。
今こそ、職場や地域で自治労連の姿をみせて、大いに対話を広げ、組合員一人ひとりの力に依拠した春闘をすすめてみましょう。

